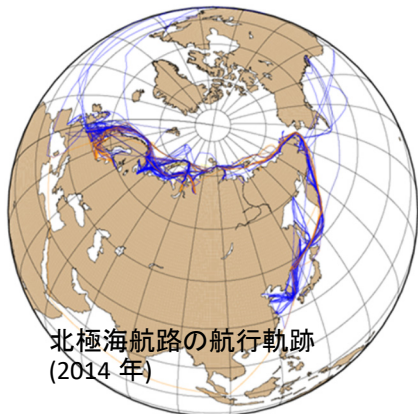


## ISOPE 2018 Sapporo 開催記念市民講演会

# 北極海航路時代を迎えた札幌



北極域・南極域を含む海洋の持続的な利用のための工学研究に取り組む国際学会である ISOPE では、2018 年 6 月、札幌にて国際シンポジウムを開催します。これを記念しまして、いま、北極域の利用をめぐって世界の関心を集めている北極海航路を紹介するとともに、北海道の経済・社会の中心である札幌の可能性について考える講演会を開催いたします。北極域の温暖化は、地球の他の地域の 2~3 倍の早さで進んでおり、その変化は中緯度地域の北海道や日本の気候にも影響を与えています。同時に、北極海の水氷減少により、北極海を通過して欧州・アジア間を結ぶ新たな海路『北極海航路』が現実化しつつあります。この新しい海路である北極海航路の要衝に位置する北海道にも、その影響が及ぼうとしています。

日時： 2018 年 6 月 9 日 (土) 14:00~16:00

会場： 北海道大学 学術交流会館小講堂 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

参加： 無料、参加自由

主催： ISOPE(International Ocean and Polar Engineering Conference) 開催事務局

北海道大学北極域研究センター (<http://www.arc.hokudai.ac.jp/isope2018%E3%80%80seminar/>)

共催： 北極域研究共同推進拠点 J-ARC Net (<http://j-arcnet.arc.hokudai.ac.jp/>)

### プログラム：

14:00 開会

14:05-14:45 『なぜ北極の気象観測が必要か?』 講師：猪上 淳  
気象災害が増えている昨今、北極域の気象観測データが私たちの暮らしにどのような恩恵をもたらすのかを紹介する。

14:45-15:10 『北極海探検の歴史といま』 講師：大塚夏彦  
多くのエピソードを交えて、ローマ時代、大航海時代から今日まで、人類の北極海への進出の道のりを紹介する。

15:10-15:20 休憩

15:20-15:35 『船がつかぬ欧州～北極海～北海道』 講師：大塚夏彦  
北極海を渡り、大西洋と太平洋をつなぐ北極航路のいまを紹介し、北海道と札幌のポテンシャルについて考える。

15:35-15:55 総合討論『札幌から北極を展望する』  
パネラー：猪上 淳、大塚夏彦、市内企業より (調整中)

16:00 閉会

### 講師：

猪上 淳： 国立極地研究所 准教授、気象モデルと現地観測を駆使して北極気候と日本の気象変化の解明に挑む。

大塚夏彦： 北海道大学北極域研究センター教授、北極海航路研究を通じて持続的北極海の利用と北海道・日本からの北極活用をめざす。

パネラー： 市内企業より。

事務局： 北海道大学北極域研究センター

電話： 011 (706) 9074、メール： [arc\\_info@arc.hokudai.ac.jp](mailto:arc_info@arc.hokudai.ac.jp)